



### 多才な同窓生の活躍が集結

## 創立50周年記念同窓会盛大に催される

昨年新築なった体育館に同窓生をはじめ、恩師、現職の先生方併せて三百余名が参加。創立祝賀記念同窓会は午後一時から総会を引き続いて新調なった組織が披露され、デザインされた十期辻崎子さんに感謝状が贈られた。祝賀会は勇壮な和太鼓の演奏で始まり、鏡開き(酒造業の同窓生寄贈、餅で乾杯)と同時に「乾杯の歌」がそれぞれプロとして活躍中の同窓生数名の合唱で歌われ、雰囲気は一挙に盛り上がった。食事をはさんで、多羅間副校長の解説で母校五十年の歴史をスライドで振り返り、しばし思い出にひたり、和やかな雰囲気になったところで、バンド演奏、シャンソンと続き、最後にも「みじや」赤トンボを全員で合唱。すっきりと十六時三十分終了予定を気にする人もなく、閉会の宣言があったかどうかとも定かでない気分で、夕暮れてやつと三々五々名残を惜しみつつ帰路につく同窓生一同であった。

### ごあいさつ

日増しに秋も深まり、木々のこすえも色づいてまいりました。同窓の皆様におかれましては、ますます清祥のことと心からお喜び申し上げます。

目録は、附属桃山中学校同窓会の発展のために、何かとご支援賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、昨年十一月二日、「附属桃山中学校創立五十周年記念祝賀同窓会」を、歴代の先生方や多くの来賓の皆様をお迎えして、懐かしい母校の体育館で開催させて頂きましたこと、おかげさまで天候にも恵まれ、同窓会が始まって以来の三百余名の同窓生の参加を得、大成功裡に終える事が出来ました。これも、半年も前から準備をして頂いた、辻前会長や理事、二期から四十九期までの評議員の皆様、そして多羅間副校長をはじめとする中学校一



当局のご尽力のお陰と、心から感謝しております。

また、同時に開催致しました「創立五十周年記念美術展」に貴重な芸術作品を出品頂いた多くの芸術家の皆様、祝賀同窓会に花を添えて下さった音楽家

## 創立五十周年記念美術展運営を担当して

平成九年七月末同窓生の作品展開催決定。担当となる。全ては多羅間副校長まかせ、私の仕事は電話連絡と作品の運搬や展示の際の肉体労働と軽く考えていた。とりあえず八月九日の評議委員会で各期毎候補者を知らせて頂くよう呼び掛ける。この時点での私の認識は学園祭のクラブ発表の大人版程度のイメージ。当初思っていた程には集まらず十名程度。美大進学者だけでももつと居るはずなのにどういふ懸念が出る。ここからボヤキつばなしの二ヶ月が始まる。

評議委員会欠席の期に呼び掛ける一方、出展予定の作者に一応作品の種類や大きさを聞いておこう。出来れば他の候補者も教えて貰おうと呑気に電話する。ところが、電話する度次々

の皆様、そして、新築なった中学校の体育館への搬入やピアノ寄贈に際して、総額五百万円余の「原志」を賜りました千数百名の同窓生の皆様それぞれに、深甚なる敬意を表します。

今、附属桃山中学校は、五十期、五千数百人の素晴らしい同窓生を送り出し、二十一世紀に向けて新たなスタートを切りました。国においては、二十二年に向けた大きな教育改革が進められておりますが、国立の中学校として、附属桃山中学校の今後ますますの発展を期待しているところであります。

最後になりましたが、中学校や同窓会に対する委員の皆様、引き続き暖かいご支援を心よりお願い申し上げます。ごあいさつとさせていただきます。

附属桃山中学校同窓会  
会長 岡本 茂樹



と問題が出てくる。曰く、運搬や保管の都合上、キッチリとした日程がきまらないと、会場仕様が分らないと合う作品が出せるかどうか、万一事故があった際は、等々色々な質問に何一つ満足に返答できない。「御念の点は多羅間先生と相談の上、出来る限りの対応をしますので、なにとぞ前向きにご検討下さい」と電話に向かって只々頭を下げる日々が続く。

九月になり徐々に作品数も増えてきた頃、設営



卒業生の画家らが出品  
 美術展担当理事  
 嶋澤 榮子 (十五期)

業者と会い正確な会場見取り図を手にする。この時初めて今回の作品展に対する多羅間先生の「思い」を実感。今までの自分の認識の甘さを反省すると共に、これだけのスケールの場とチャンスを与えて貰った以上何としてでも成功させなければと決意を新たにす

最終段階に入る頃、次々と連絡が付き、結果的には高名な方の作品や大作も含め、質量とも充実したバラエティに富んだ作品が集まる。一安心し、作者の方々に要綱を案内し、直前の評議委員会に状況を報告し、展示作業、会場監視等の手伝いを要請するも人員不足で特定の方々に負担がかかりすぎ最後の懸念が出る。このよう

お陰様で美術展は大好評を頂きました。担当理事として、大切な作品を出展して下さいました作者をはじめとしまして出展、搬入、展示、保管など同窓生のご協力にこの場を借りてお礼申し上げます。

最後に、なによりも発案、企画、雑務処理を一手に引き受け、私達卒業生にこのような機会を与えて下さった多羅間先生に心から感謝とお礼を申し上げます。





●上へ下への大騒ぎ



●受付風景「お久しぶり」



●五十歳のリハーサル

準備風景

京都教育大学教育学部附属桃山中学校  
創立50周年記念祝賀同窓会



●コーラスのリハーサル



●料理はおまかせ!



オープニング



綴帳披露

●綴帳デザインの土崎さんに感謝状贈呈



記念撮影

●記念写真は三組に分かれて



鏡開き



合唱  
「乾杯の歌」

伴奏: 横田 蘭子さん(35期) 藤花 優子さん(18期) 山田 晏子さん(10期) 横井 省吾さん(15期)  
夏目 久子さん(10期) 下元 富紀子さん(13期) (順不同)







2部懇親会



●同窓会も三世同居の時代●



京都教育大学教育学部附属桃山中学校  
創立50周年記念祝賀同窓会

ミュージック  
ライブステージ



●11期のみなさん

●会場に歌を振りまく  
宮門 菫子さん(16期)



創立50周年  
記念グッズ

●創立50周年記念誌

●50周年記念グッズとして「つゆ草」をデザインしたラップトップ



同窓生の  
美術作品展



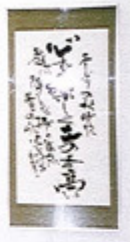
### 創立記念事業に 独自性を求めて

## 創立50周年記念美術展

京都府立大学附属桃山中学校創立50周年記念事業

昭和二十年が新制中学校発足の年であるため、本校を含め、歴史ある学校の多くが、平成九年度に創立五十周年を迎えることとなった。創立五十周年を記念して、本校では

様々な事業の展開を企画したが、記念誌の出版、記念式典の開催はこの学校でも企画することであろうと想像できた。そこで、記念誌や式典とは別に、本校独自の取り組みとして、それぞれの分野で活躍中の卒業生による、記念音楽会や記念美術展などを開催できないかと考えた。幸い企画時点で同窓会長をされていた十期の辻御子様のご協力も得られ、徐々に具体化に向けて動き始めた。



記念音楽会も美術展も基本的な考えとして、在校生が先輩の活躍を見て、自身身の励みにし、附屬桃山中学校の生徒であることに誇りを感じられる場にしたと考えた。記念音楽会は音響設備の良い大学の講堂を使い、平成九年六月一日の創立記念日に開催できた。十五期横井省吾様、二十期上宮信子様、三十五期明福田陽子様のバラエティー豊かな演奏に、生徒や保護者と共に楽しく充実した一時を過ごすことが出来た。



記念美術展は、一昨年竣工した体育館の機能を生かし、学校の文化祭と同窓会「つゆ草の集い」に日程を重ね、在校生は言うまでもなく、保護者や卒業生などにも広く公開出来るようにしたいと考えた。十五期嶋澤栄子様のご尽力で、出品していただける方の選出が進められたが、作家として高い知名度のある方が多く、熱のこもった高レベルの作品が集まること予想されたため、展示会場設置は京都でも最高の業者(伏見工芸)に依頼した。



十九日に展示作業を行った。その間、私は連日遅くまで、パソコンやキャプション作りで追われ、深夜に同窓会役員の方から差し入れを頂いたりもした。十月二十日の展覧会初日の朝になって、ようやく落ち着いて作品を鑑賞できるようなになったが、改めて作品の質の高さに驚いた。日本画、洋画、彫刻、デザイン、工芸、版画、写真、書道、華道と幅広いジャンルにわたって上質の作品が集まったのを見るにつけ、この学校が育んだ才能の豊かさや五十周年の歴史の重みを感じたものである。



笑する姿、先輩の作品を熱心に見る在校生や保護者の姿、友人の作品を贈る昔話を花を咲かせる卒業生の姿、このような多くの人々の様子を見て、この展覧会開催の意義を再確認した。そして、その中に私の拙作も展示させて頂いたため、多くの卒業生の方と美術を通じて知り合いになり、何人かの方から出品作を寄贈いただいた。

十一月三日までの会期を終え、搬出の日にも、また近いうちに第二回展覧会を希望する声も頂いたが、企画した側としては苦勞が報われた思いであった。

最後になりましたが、本展覧会に作品を出品していただいた方、お世話を頂いた同窓会役員の方、私の発案に協力し、いろいろな形で支援してもらった教職員の方に御礼申し上げます。

附屬桃山中学校副校長  
多羅間 拓也



### 創立五十周年記念 美術展を振り返って

期待と不安が入り交じった複雑な気持ちで入場の日を迎え、作品を紐解いていくにつけ、作品の水準が高いのに驚きを持ったのが正直なところ。愛する我が母校の卒業生は知性と教養を持って生活されていることが解り、尊敬の気持ち

を大きくした。  
また、絵画、彫刻、書、染色、工芸、写真、どの作品も在野の展覧会へ出品しても入選されるレベルだと思われる。

戦後、豊かさや利便性を求め工業や商業の発展を願い、日本人が本来持っている素晴らしい「文化感覚」を疎かにしてきたことが「心の重み」を助長し、官僚、政治家や青少年の犯罪を生んでいると言っても過言ではないだろう。不況の中、「公共事業に投資を」と言うが、一過性の「公共事業」は好い加減に止

めにして、福祉や文化に公共投資をするべきである。

ソフトの時代と言われて久しいが、物質的な富裕さよりも、精神的な富裕さを求めるためにも、美術や工芸は人間が生きていく上には重要な位置にあることを再認識しなくてはならない。

このことを伝える上でも、今回のように母校で卒業生の美術展が開かれたことは、後輩の諸君に対する大いなるメッセージとなったと思う。

学校側の多大の「尽力」があつてのことだが、「二、三年に一度機会を設けていただければと思う。その時には協力を惜しまないつもりでいる。附属桃山中学校を卒業したことに、誇りを感じた五十周年記念美術展であつた。

造形作家  
小田垣 覚(十期)

### 出品者名簿

水彩画	栗納ひろ子	四
墨彩画	下店 莊八	五
染色・織物	小川 孝子	七
写真	高谷 桂子	八
油彩画	小田 垣覚	十
日本画・染色	辻 詢子	十
刺繍	三木 眞枝	十
鉛筆画	平岡眞利子	十
クラフトデザイン	福田 南	十一
油彩画	芦田 妙子	十一
油彩画	林恵 美子	十一
アートフラワー	榎垣 栄子	十一
書	和田 香風	十二
染色	小室 正治	十三
クラフトデザイン	古川加津夫	十四
油彩画	梅谷 正恵	十五
フラワーデザイン	深田 幸恵	十五
エッチング	山岡康子	十五
竹集成材家具	佐藤 敬	十六
写真	中本 桂材	十六
日本画石	原貴 暉	十七
彫刻	九後 稔	二十
油彩画	香匠 見晴	二十三
日本画	橋本 明子	二十六
書	中村 史朗	二十八
書	小林 千鶴	三十
日本画	藤原 玲子	三十一
シルクスクリーン	古川 淳子	三十一
彫刻	多藤開拓也	現職員
水彩画	深見 英一	現職員
水彩画	梅原 育子	現三年生
鉛筆画	吉中 美礼	現二年生
オルゴール	黒田香菜子	現一年生

### ● 創立50周年記念事業協力状況報告 ●

(平成8年4月～平成9年11月2日)

期	人数	金額	人数	金額
1	40	181,000	26	243,000
2	29	175,000	16	103,000
3	27	132,000	13	81,000
4	42	223,000	20	80,000
5	20	160,000	16	72,000
6	35	221,000	12	77,000
7	38	234,000	7	29,000
8	47	192,000	17	78,000
9	51	350,000	18	81,000
10	30	148,000	24	202,000
11	29	119,000	22	128,000
12	27	171,000	16	88,000
13	21	95,000	4	29,000
14	28	103,000	10	45,000
15	14	66,000	9	45,000
16	18	53,000	5	24,000
17	9	29,000	6	33,000
18	27	87,000	12	45,000
19	12	37,000	9	30,000
20	12	35,000	5	15,000
21	22	67,000	7	16,000
22	12	29,300	6	26,000
23	34	106,000	10	35,000
24	17	41,000	7	18,000
25	11	40,000	6	15,000
26	12	33,000	8	21,000
27	12	41,000	9	38,000
28	20	90,000	7	25,000
29	5	15,000	0	0
30	8	18,000	7	24,000
31	10	21,000	2	5,000
32	5	8,000	2	5,000
33	6	8,000	1	2,000
34	2	3,000	2	11,000
35	9	19,000	1	7,000
36	10	19,000	3	17,000
37	6	7,000	1	2,000
38	14	36,000	3	10,000
39	9	13,000	2	2,000
40	12	17,000	3	26,500
41	9	15,000	2	5,000
42	11	14,000	5	16,000
43	11	15,000	2	4,000
44	19	23,000	1	5,000
45	17	40,000	2	3,000
46	18	25,500	0	0
47	37	66,000	4	9,000
48	0	2,000	1	2,000
合計	913	3,599,800	371	1,908,500

### 附属桃山中学校創立50周年記念祝賀同窓会収支報告

平成9年11月2日於中学校体育館

収入	
当日会費	1,804,000 (300名)
会員名簿販売	1,244,000
記念品販売	78,900 (テレフォンカード・ファイル・捺印)
名簿掲載広告料	93,000
お祝い金	16,500 (現・旧職員)
記念写真代	223,000
同窓会振出金	1,937,293
合計	5,396,693
支出	
ピアノ寄贈代	290,000 (椅子・カバー式)
会員名簿作成費	1,970,850 (2000冊広告版下代共)
つゆ草の集い案内作成費	301,350 (案内状・プログラム・振込用紙各6000)
記念品作成費	593,610
会場設営費	440,000 (テーブル・椅子・看板・花)
会費	980,910 (280名分)
アトラクション	310,000 (歌太鼓・アンプ・伴奏など)
記念写真代	264,920 (原簿並半分を含む)
郵送料	187,300 (名簿・テレカ)
同窓会準備協力委員経費代	20,740
同窓会準備経費	37,013 (校門看板・事務用品・フィルム・ビニール帳など)
合計	5,396,693

### 附属桃山中学校 創立50周年記念誌発売のご案内

昨年の記念同窓会で発売した「附属桃山中学校創立50周年記念誌」は、母校の歴史と卒業生の思い出をカラー写真入りで200頁にまとめられ、表紙は校草のつゆ草の藍色を生かした布製に銀文字が清々しく、内容・装丁共に思い出の記として相応しいものです。好評で残り僅かになりました。ご希望の方は下記へお申込み下さい。

- 申込方法：葉書またはFAX(お申込順にお送りします。)
- 申込先：京都教育大学教育学部附属桃山中学校  
事務室記念誌係  
〒612-0071 京都市伏見区桃山井伊掃部東町16  
FAX:075-611-0371
- 代金：2,000円(送料別)  
お支払方法はお申込みの方に直接お知らせします。

# ◆ 同窓会役員・評議委員名簿(平成10年8月現在) ◆

評議委員の方で変更があった場合は、お手数ですが百々 恵子さん(13期) [ ] まで必ずご連絡下さい。

## 同 窓 会 役 員

岡本 茂樹 会長 12期	船澤 栄子 理事 15期	小林 裕南 理事 33期
中島 章 副会長 3期	宮門 喜子 理事 16期	奥島 雅子 理事 36期
百々 恵子 副会長 13期	上宮 信子 理事 20期	藤田 匡史 理事 41期
竹村 一志 副会長 14期	一平 晴規 理事 21期	小野 明倫 理事 42期
森川 順子 理事 19期	田村 直樹 理事 22期	桐村 慶二 理事 45期
池村 浩 理事 20期	甲斐 純子 理事 23期	松井 京子 理事 2期
田中 真須美 理事 22期	森田 真司 理事 24期	岡本 靖子 理事 11期
高石 知児 理事 4期	上野 浩也 理事 26期	辻 絢子 顧問 10期
原 悦子 理事 8期	橋本 二三代 理事 28期	多羅間 拓也 顧問
堀田 善弘 理事 13期	玉井 昌泰 理事 31期	

## 評 議 委 員

吉田 福雄 2期	本庄 良文 19期	稲葉 謙次 37期
米澤 久子 3期	森村 隆 20期	奥山 智緒 37期
木内 美佐子 4期	下村 鮎 21期	堀見 真一 38期
岩崎 芽有 4期	木山 光泰 21期	菅井 清恵 38期
木崎 隆夫 5期	田中 博 23期	植平 祐一 39期
上村 康子 5期	野依 美智子 24期	山脇 広子 39期
中村 福 6期	石田 博之 25期	吉村 裕司 40期
前田 悦子 6期	黒瀬 悦子 25期	岡 美穂子 40期
小関 正雄 7期	亀谷 敏子 26期	吉田 知未 41期
岡田 節子 7期	洲崎 博史 27期	仲摩 志野 42期
川口 徳之 8期	内田 純子 27期	鈴木 林次郎 43期
栗田 道生 9期	吉田 明弘 28期	辻井 知美 43期
森川 輝雄 9期	坂 保博 29期	西條 良 44期
山田 晏子 10期	阪口 啓子 29期	田中 美美 44期
田原 隆夫 11期	加藤 行 30期	吉田 拓未 45期
和田 益子 12期	小林 千鶴 30期	橋本 芳紀 46期
辻 基一 13期	樋口 令子 31期	秋田 真代 46期
麻柄 石 14期	水谷 善彦 32期	矢野 敏 47期
佐伯 拓郎 15期	水谷 千裕 32期	石田 真弓 47期
佐藤 敏二 16期	大森 朋 33期	植田 成実 48期
水谷 孝子 16期	菱田 真 34期	今堀 千鶴 48期
中川 陽之助 17期	浅田 真理 34期	藤崎 陽平 49期
井沢 孝子 17期	田中 祥之 35期	浜口 優子 49期
吉田 崇 18期	岡本 あゆみ 35期	兼増 信一郎 50期
藤花 優子 18期	池谷 行 36期	吉田 美智子 50期

**編集後記**

記念祝賀同窓会  
を特集するので、  
予め必要な写真を  
当日撮っていたの  
ですが、帯に短し  
たすきに長し。中  
学校のアルバムか  
ら沢山拝借させて  
いただき、大変助  
かりました。八月  
末出稿の予定だっ  
たらしいのですが  
：なぜか九月末に  
脱死のごとく取り  
かかった次第。  
会長の原稿がぎり  
ぎりまで音沙汰な  
し。新聞発行の遅  
れは私だけのせい  
じゃないと言える  
ゾと催促しないで  
いましたが、意地  
悪でしようか。  
十号に引き続き、  
次期編集長大募  
集。経験・悪筆・年  
齢性別・文才不  
問・給与なし・代わ  
りに細々と持ち出  
し多し。六千人近  
い同窓生の中に、  
一人も候補者が居  
ないはずはない！  
やってみないけど  
：と遠慮がちのあ  
なた！今すぐ岡本  
会長か編集担当八  
期の原までお電話  
ください。